

シンポジウム 1

「消化管疾患と腸管バリア、内臓知覚の最前線」

司会 穂苅 量太（防衛医科大学校消化器内科）

加藤 伸一（京都薬科大学病態薬科学系薬物治療学分野）

腸管バリアは、腸内細菌や外来刺激などに対する防御機構として重要な役割を演じています。腸管バリアの破綻は、様々な消化管疾患の発生のみならず、全身性にも影響を及ぼすことが知られています。内臓知覚は、過敏性腸症候群や機能性ディスペプシアに代表される機能性消化管疾患の病態、特に腹痛などの発症に密接に関わっています。さらに、内臓知覚は、腸管バリア機能の維持・調節にも関わっており、一方、腸管バリアの破綻が内臓知覚の異常を引き起こすことも知られています。したがって、種々の消化管疾患の病態を理解する上で、腸上皮バリアと内臓知覚の関連が興味あるところです。本シンポジウムでは、消化管疾患と腸管バリア、内臓知覚について、最新の知見を含めて討論する機会にできればと考えています。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。